（Ｒ５．６．16）

令和５年度　朝日山地森林生態系保護地域部会

６月 16 日（金）、「朝日山地森林生態系保護地域部会」を４年ぶりに対面方式で開催いたしました。

開会に先立ち、東北森林管理局松井計画課長より「本年度の朝日山地森林生態系保護地域における取組がより効果的なものになるよう、昨年度の巡視活動の取組や保護林のモニタリング調査結果、及びニホンジカの情報について、活発な議論をお願いしたい」との挨拶の後、委員変更者を含め出席者の紹介を行いました。

会議風景

山形大学農学部菊池准教授を座長として選任し「久しぶりの対面開催となります。内容が多岐にわたる会議であり、審議事項・報告事項がたくさんあります。皆様の色々な意見を頂きながら進めていきたいと思います」との挨拶の後、「令和４年度東北森林管理局保護林管理委員会における審議内容」をはじめ、「巡視活動等報告」、「保護林のモニタリング調査結果等」、「人工林から天然林に誘導する取組」、「朝日自然塾」、「ニホンジカの確認情報」及び「関東森林管理局（下越森林管理署村上支署）の連絡事項」まで時間を超過する議論となりました。

委員からの質疑では、特に「モニタリング調査結果、ニホンジカ確認情報に対するシカ対策」がありました。

会議風景

内容は、「狩猟による個体密度の低下を図ること、防護柵を設けるなどの取組は各地で行われ、被害を軽減する成功例が少し出始めています。そこで、全国でどのようなことが行われているのか、情報を整理した上で、モニタリングのどの段階でどのような対策を講じれば、予測される負の影響を軽減できるのかということを、事前に協議、検討しておくべきである」や「チョウ類のトランセクト調査の実現可能な方法を検討できないか」との意見を頂き、シカ対策について関心の高さが伺えました。

最後に、朝日センター中嶋所長から「本日いただきました意見は、今後の朝日森林生態系保護地域の保護管理に反映させ、しっかりと活かしていきたい」との閉会の挨拶により終了となりました。

東北森林管理局朝日庄内森林生態系保全センター